

共愛学園前橋国際大学

「地(知)の拠点整備事業」
2014年度実施報告書

2015年9月

共愛学園の「地(知)の拠点整備事業」～連携から一体へ～

1888年(明治21年)以来、126年間一貫して「地域との共生」に取り組んできた共愛学園を母体とする共愛学園前橋国際大学は、「地域社会の諸課題に対処できる人材の養成」を目的に、地域志向を最重要の柱に位置付けて教育・研究・地域共生を展開してきました。

本学が地域と共に推進する事業のコンセプトは、「地学一体」です。連携から一体へと、地域との関係を進化/深化させるべく行ってきた本学の「地(知)の拠点整備事業」の初年度の実績を本書にてご報告致します。

I. 実施体制 2

- 地(知)の拠点化推進委員会の設置
- 地域志向研修
- COC 担当者連絡会議の実施
- COC 推進本部第一回会議(設置会議)開催

II. 教育 7

- 地域志向教育のためのカリキュラム改革
 - サービ斯拉ーニングタームの制度設計
 - 規定策定/共愛コア科目「地域理解」科目群の必修化
 - 各種人材育成プログラムの科目化
 - 新設科目「Regional Project Work (RPW)」の設計
 - 新設科目「長期インターンシップ」の設計
- 既存の地域連携科目の継続

III. 研究 13

- 地域志向教育研究支援制度

IV. 社会貢献 17

- 平成26年度の主な社会貢献活動一覧

V. 広報活動 21

- シンポジウム「グローバル人材について考える」開催
- その他の広報活動(専用 Web サイト、リーフレット、パンフレット)

I. 実施体制

地(知)の拠点化推進委員会の設置

地(知)の拠点形成に向けての取組を全学的に推進・統括する全学組織として、学長を委員長とする「地(知)の拠点化推進委員会」を本事業採択直後の平成26年10月1日に概要を定め設置しました(正式な設置規定は平成27年2月20日制定)。同委員会の設置により、学長のリーダーシップを発揮しながら、学内各部署を連携させ、全学的な地域志向改革を推進するためのガバナンスを強化することが出来ました。同委員会に所属する者は下記です。

学長(委員長)	平田 郁美
副学長・地域共生研究センター長	大森 昭生
国際社会学部長	西川 正也
学長補佐	佐藤 高司
学生センター長	淡嶋 亨
入試・広報センター長	今泉 一吉
事務局長	古田 健
総務課長	是澤 博
各コース長	
英語コース	藤枝 豊
国際コース	呉 宣児
情報・経営コース	村山 賢哉
心理・人間文化コース	松本 学
児童教育コース	岸 一弘

地域志向研修

●FD/SD 研修会

本学の最高意思決定機関であるスタッフ会議(教職員全てが参加する教職一体会議)において、地域志向研修会を下記の二回行いました。

第一回 平成26年8月7日

申請したCOC事業について全職員に共有。教育・研究・社会貢献の具体的な取組や実施体制(前橋市との共同設置による推進本部)などについてCOC推進本部長である副学長より説明を行った。

第二回 平成27年2月25日

平成27年度に始動する取組としてCOC事業を紹介。特に「地域志向科目」

や「サービスマーケティング制度」などカリキュラムに関わることを全教職員にCOC推進担当教員より共有。

●他大学視察研修

教職員がより地域志向となるための研修の一環として、先進の大学への視察研修を実施した。本年度は下記の3大学の視察を行いました。

大学名	実施時期	視察目的
はこだて未来大学	H26年12月9日	プロジェクト学習 3年次全員必修の実社会に根ざした問題群を解決していく取組 5階分を吹き抜けにした大空間
小樽商科大学	H26年12月10日	COC公募プロジェクト マジプロ 有志学生により小樽の観光をテーマとして課外活動
松本大学	H27年2月24日	地域づくり考房「ゆめ」 学生が大学で学んだ知識や技術を、地域づくりの中で実践的に生かすため様々な取り組みを実践

COC担当者連絡会議の実施

伊勢崎市や群馬県との連携事業を展開していくため、平成26年11月より連絡会を開催した。本年度は、本学地域コーディネーターが2つの連携先に赴き、具体的な連携内容の確認を行いました。

両自治体と連携を検討している主な項目は下記です。

外国語活動サポーター派遣

小学校の放課後学習に学生による外国語サポーターを派遣する。

連携先：伊勢崎市学校教育課

小中学校の英語学習の接続に関する調査とグローバル人材育成の検討

小中学校の教員と本学教員が小中学校を接続する学習カリキュラムを研究

連携先：伊勢崎市教育委員会

高大接続を柱としたキャリア形成プログラムの実証・開発
 本来的なキャリア形成をテーマに高校と大学が連携してゼミを開講
 連携先：群馬県少子化青少年課

COC 推進本部第一回会議(設置会議)開催

前橋市と本学は、持続的な「地(知)の拠点」を創生するための地学一体化プロジェクトを円滑に進めるため、平成27年2月2日COC推進本部を合同で設置しました。前橋市と本学は、地域の課題解決や発展に向けて、人事交流を行いながら一体となって取り組んでいきます。

当日の出席者

共愛学園前橋国際大学		前橋市	
学長	平田 郁美	副市長	細野 初男
副学長	大森 昭生	教育長	佐藤 博之
国際社会学部長	西川 正也	政策部長	関谷 貴
事務局長	古田 健	文化スポーツ観光部長	静 知明
学長補佐	佐藤 高司	教育委員会教育次長	中島 實
地域連携担当教授	奥山 龍一	教育委員会指導担当次長	宮崎 徹
地域コーディネーター	樋口 匠	政策推進課長	橋本 誠次
地域共生研究センター教員	野口 華世	文化国際課長	湯浅 真一
地域共生研究センター職員	塩田 正美	学校教育課長	大井 利之
COC推進本部事務局統括代理	堀田 誠	生涯学習課長	小野里 悟
COC推進本部事務局員	岡田 佳子	青少年課長	山口 和良
		政策推進課政策推進係長	原田 陽一
		地域コーディネーター	小林 美紀

〔参考資料〕

共愛学園前橋国際大学・前橋市COC推進本部設置要綱

（目的）

第1条 共愛学園前橋国際大学と前橋市は、「地域（産業）人材の育成」と「地域ブランド向上」の地域課題解決を含む、地域の発展に寄与する取組を展開するために、持続的な「地（知）の拠点（COC）」を創成する地学一体化プロジェクト（以下「本事業」という。）を推進する。

（設置）

第2条 本事業を推進するため、共愛学園前橋国際大学と前橋市はCOC推進本部（以下「推進本部」という。）を一体的に設置する。

（所掌事項）

第3条 推進本部は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 本事業に関する重要事項及び総合調整に関すること。
- (2) その他本事業の推進に必要な事項に関すること。

（組織）

第4条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員で構成し、別表1に掲げる職にある者をもって充てる。

- 2 本部長は、推進本部の事務を統括する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐し、本部長が不在のときは、その職務を代理する。

（ワーキンググループ）

第5条 推進本部の運営を円滑に行うため、推進本部の下にワーキンググループを置く。

- 2 ワーキンググループは、座長、副座長及びメンバーで構成し、別表2に掲げる者をもって充てる。

（会議）

第6条 推進本部の会議は、本部長が副本部長と協議して随時招集する。

- 2 本部長又は副本部長のいずれかが必要であると認めるときは、本部員以外の者を会議に出席させ、その意見又は説明を求めることができる。

（事務局）

第7条 推進本部に事務局を置く。

- 2 事務局の運営は、共愛学園前橋国際大学COC推進本部事務局において行う。

（その他）

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長及び副本部長が協議して定める。

附 則

この要綱は、平成27年2月2日から施行する。

II. 教育

地域志向教育のためのカリキュラム改革

全学的に地域志向教育を行うため下記のようにカリキュラム改革や新設科目の設計などを行いました。

① サービスラーニングタームの制度設計・規定策定

サービスラーニングタームとは、長期海外留学と同様に、学内の授業に出席するのではなく、2年次以降に地域活動やインターンシップ等に参画することを可能とする制度。半年間の地域における学修に対して、その内容に応じて一定の単位を付与する。

② 共愛コア科目「地域理解」科目群の必修化

共愛コア科目の「地域理解」科目群を地域志向科目に定め、当該科目群から最低1科目は必ず履修するよう履修規定の改定を行った。

③ 各種人材育成プログラムの科目化

地域との協働で行ってきた課外活動である各種人材育成プログラムを次年度より単位認定するにあたり、履修可能となるように制度設計を行った。正規科目となった人材育成プログラムは以下

I. 環境ネットワークキャンパス(連携先：サンデン環境みらい財団)

大学生(本学・群馬大学・高崎経済大学・早稲田大学)とサンデン若手社員がチームになって、「環境」をテーマとした社会貢献活動を行い、東京で開催されるエコプロダクツ展で成果発表をする。

II. Mキッズサミット(連携先：前橋市生涯学習課、中央公民館)

前橋市内の子どもたちが集い、地域発見と発信をするプログラム。大学生が小学生のグループ活動をサポートする。

III. やる気の木プロジェクト(前橋市にぎわい商業課まちなか再生室)

前橋市内の大学、専門学校の学生たちが、中心市街地を舞台として、やりたい事を企画し、形にしていく活動です。昨年度は約100人の学生実行委員と市役所職員(有志)が協力して、7つのプロジェクトを実行。

IV. 「前橋学」講座(連携先：前橋市生涯学習課、各公民館)

前橋市内の公民館との共催で、地域の人々が郷土の歴史について学ぶ講座に出席。また地域の伝統行事に参加して、それを支える人々との交流も行う。

③新設科目「Regional Project Work (RPW)」の設計

RPWとは、学生が地域の課題解決等に半年間をかけて取り組む活動のこと。地域が抱える課題を掘り起こし、解決策を考えて行動する。地域や企業の課題をテーマとして活動することで、実際の社会の仕組みや問題点を知り、それに取り組む人々との協働・交流を通して、地域の人材としての自覚や行動力を養う。

RPWは平成27年度より導入され、本年度はその準備期間として下記の団体と連携について協議を重ねた。

前橋文学館

所在地 群馬県前橋市千代田町 3-12-10

Web URL www15.wind.ne.jp/~mae-bun/

NPO 法人いせさき NPO 協議会 社会貢献ネット

所在地 群馬県伊勢崎市除ヶ町

Web URL www.imap.ne.jp/mt/group/695/main

④新設科目「長期インターンシップ」の設計

これまで本学では、学生の約半数が2週間の短期インターンシップを経験してきた。この実績を基盤に、インターンシップの本来の趣旨である「職業意識の育成」「職業適性の確認や将来設計」「社会で生きる力の育成」を深化させるために、長期インターンシップを平成27年度より導入するため、下記の企業などに受け入れのための協力を依頼した。

企業・団体名称	所在地	ホームページ URL
一般財団法人 サンデン環境みらい財団	伊勢崎市寿町	sanden-kankyomirai.or.jp
相模屋食料株式会社	前橋市鳥取町	sagamiya-kk.co.jp
司建設株式会社	沼田市桜町	airmove.co.jp
NPO 教育支援協会北関東	前橋市下大島町	kyoikushien-kitakanto.com
前橋市役所	群馬県前橋市大手町	city.maebashi.gunma.jp
前橋市教育委員会		

既存の地域連携科目の継続

本学の学生たちは、下記のような既存科目の中でも地域連携の取組を行い、地域の人々との交流を大切にしながら、そこから多くの学びを得ています。本年度は、下記の地域と連携した科目を延べ 302 人が履修した。

科目名	概要	履修者 H26 年度
電子商取引演習	2004 年度から地元企業と連携した商品開発をテーマに開講。この科目を通して学生は、文部科学省主催インターネット活用教育実践コンクールや「トレードフェア」に参加し、インターネット活用教育実践コンクーでは入賞、「トレードフェア」では 4 年連続（大学生部門があった時代から数えると 10 年連続）最高賞受賞。	20
繭美蚕（まゆみさん） （課題演習 兼本）	課題演習の兼本ゼミナールの学生が 2005 年 6 月に設立した仮想企業。群馬の地域活性化を目的として、地元企業と連携した商品開発と販売を行う。 （「大学は美味しい!!」フェアには本学を代表し、2 年連続出展） 本年度は、前橋市内の「町田酒造」、「ル パティスリー ヒデ」との協働で全て前橋市の素材を使った商品開発と販売を目指したプロジェクトを進めている。	11
学校フィールド学習	前橋市立筑井小学校との地域連携事業。同校に本学学生が派遣され、教諭の方のサポートなどを中心に学校の業務全般に関わりながら教育事業について学ぶ。同校には、本学学生用の机が職員室におかれている。	57
日本語教師教育実習	南米を中心とした外国にルーツのある児童の多い伊勢崎にして、小学校に日本語教室サポーター派遣を派遣する伊勢崎市教育委員会との地域連携事業。学生が日本語教育を実践の場で学ぶことが出来る機会となっている。	8
児童英語教育実習	前橋市立筑井小学校との地域連携事業である放課後英語活動サポート等を中心に幼稚園や小学校における児童英語教室を開設し、学生がそのサポートにあたり。学生にとっては、現場での児童英語教育を学ぶ機会になっている。	7
学生ボランティア実習	一定以上のボランティア参加に単位を付与する制度主な派遣先：前橋市内小中学校、伊勢崎市内小中学校、太田養護学校、群馬県青少年会館、群馬県立自然史博物館、群馬県立近代美術館、群馬県警、前橋市社会福祉協議会、みどり市男女共同参画センター、前橋市男女共同参画室、高崎市、渋川市等	199

Ⅲ. 研究

地域志向教育研究支援制度

平成 27 年 2 月 6 日から本学の地域連携教育、地域課題研究を促進するため共愛学園前橋国際大学地域志向教育研究支援制度が施行されました。

制度概要

応募資格：本学専任教職員

助成対象：前橋市、伊勢崎市、群馬県に在する自治体や企業等と連携した地域連携、地域振興、地域課題解決に係る教育・研究

助成金額：1 件につき 30 万円を上限

審査：地(知)の拠点化推進委員会(委員長：学長)

本年度は下記の 6 件を採択致しました。

教育・研究名称	代表者	主な連携先
オール前橋魅力発見プロジェクト	兼本雅章	ルパティスリーヒデ
“地域づくり辞典”づくり	呉宣児	前橋市地域づくり連絡会
ぐんま方言フェスティバルプロジェクト	佐藤高司	前橋市児童文化センター
伊勢崎市小・中一貫英語力向上カリキュラムの作成	小林恵美	伊勢崎市教育委員会
学生による地域（商店街）再生の実現可能性調査研究プロジェクト	村山賢哉	株式会社上毛新聞社
オープンデータの活用による前橋市の活性化に関する研究	小柏伸夫	前橋市役所情報政策課

採択された研究は、平成 28 年 3 月 31 日までに実施報告書の提出を義務付けられています

【参考資料】

共愛学園前橋国際大学地域志向教育研究支援制度 平成 27 年度地域志向教育研究費公募要項

1 趣旨

本学の地域連携教育、地域課題研究をより一層促進するために、本学教職員が行う際に、その教育・研究に係る費用（以下、地域志向教育研究費という。）を助成します。

2 応募者要件

本学の専任教職員並びに客員教授で、地域連携による教育、地域振興に係る教育・研究、地域課題解決に係る研究等を推進する者

同一の活動計画において学外研究資金等を受給していない者

3 助成対象

地域連携による教育、地域振興に係る教育・研究、地域課題解決に係る研究であって、次の要件に全て該当する者

●地域振興や地域課題解決に係る教育プログラム又は研究、地域連携により展開される教育プログラム又は研究であること。

●前橋市、伊勢崎市、群馬県に在する自治体、教育委員会、学校、地域団体、経済団体、企業、NPO 等と本学の専任教職員または客員教授が連携して展開する教育プログラムまたは研究であること。

4 助成金額及び採択予定件数

助成金額：1 件あたり 30 万円を上限 ※選考審査の上、助成金額を減額することがあります。

採択件数：5 件

5 実施期間

実施期間は、平成 27 年 4 月 1 日またはそれ以降の採択決定日より平成 28 年 3 月 31 日までとし、実施期間内に確実に所期の目的を達成するプロジェクトに対して助成します。

6 成果の報告及び公表

平成 28 年 3 月 31 日までに実施報告書を提出して頂きます。

また、下記取組の実施の際には、別途協力して頂きます。

●本学 web サイトにおける成果概要発表

●成果報告会開催時における成果発表

7 公募手続等

公募締切日 平成 27 年 3 月 20 日(金)

申請書(別紙 1)及び予算計画書(別紙 2)を COC 推進本部事務局に提出してください。

8 選考手続

地(知)の拠点化推進委員会にて審査の後、学長が決定します。

9 その他

●予算計画書の作成にあたっては、無理に助成金額の上限まで積み上げるのではなく、助成金の性質に鑑み、真に必要な経費のみを計上してください。

●助成金は、学内規程に従い適切に執行してください。

●助成金の支出にあたっては、領収書等の経費の用途・金額を証明できる書類等の提出が必要となります。また、設備備品(10 万円以上の物品)を購入した場合は、文部科学省の指定様式により購入目的、使用頻度等について報告して頂きます。

●助成対象者が事業を遂行できなくなったときは、助成金の支給を停止します。

●研究費の不正使用等が発見された場合は、直ちに助成をとりやめます。

附 則

本規程は、2015 年 2 月 6 日から施行する。2015 年 2 月 6 日から施行する。

IV. 社会贡献

平成 26 年度の主な社会貢献活動

例年通り、本学では多くの社会貢献活動を行いました。なかでも高校生にライフデザインについて考えてもらう「高大連携コラボゼミ」や近隣の小学校である永明小の呼びかけで始まった「行動合唱祭」、前橋市長を招いての「タウンミーティング」などは本年度の新しい試みにも関わらず、多くの地域の方に参加して頂くことが出来ました。本年度は、下記の社会貢献の取組うち集計をとったものだけで延べ 3449 名の方が参加してくださいました。

科目名 実施日	概要	参加数 H26 年度
きょうあい子育てひろば 託児養成講座 4/30、5/7	子育て全般の課題や社会状況、そして子育てする人を支援する心構えなどをもう一度学び、実践に取り組む講座	18
えいめい・きょうあい 子育てひろば ファーストステップ 6/4、6/11、6/18、6/25、7/2、 7/9	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム（前橋市公民館共催）	124
きょうあい子育てひろば セカンドステップ 8/28、9/4、9/9、9/11、 9/18	母親という立場や悩み、父親という立場や悩み、家族の関係など周囲の変化と関連させながら考え、悩みや疑問を一人で抱えないで共有し、少し視点を変えて考える	163
きょうあい子育てひろば サードステップ 2/6、2/10、2/17、3/3、 3/10	今という時間と未来という時間。まだまだ続く子育てと自分の人生。時間軸の上を大きな視点で考えていく講座	145
きょうあい子育てひろば ファーストステップ 2/4、2/18、2/23、3/2、 3/9、3/16	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム	180
しぶかわ子育てひろば ファーストステップ 10/15、10/22、10/29、11/5、 11/12、11/19	子育ての知識と知恵と元気を分かち合い、おいしいお茶と素敵な音楽も楽しめる子育て支援プログラム（渋川市共催）	120
しぶかわ子育てひろば サードステップ 9/3、9/10、9/17、9/24、10/1、 10/8	母親という立場や悩み、父親という立場や悩み、家族の関係など周囲の変化と関連させながら考え、悩みや疑問を一人で抱えないで共有し、少し視点を変えて考える。（渋川市共催）	126
前橋学 「楫取素彦から 生糸産業まで」 2/14、2/21、3/7	2014年6月には富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録され、注目されている、また2015年の大河ドラマは、明治のはじめ群馬県令（今の県知事）であった楫取素彦の妻が主人公であり、今、まさに注目を集めている近代の前橋について全3回の講座をとおして、様々な視点から学んでもらう市民講座	630

放課後イングリッシュ 4/16より毎月三回開催 (全て水曜日)	小1～小3を対象とした英語教室 (NPO教育支援協会共催)	720
群馬現代史研究会 7/5、11/22、3/7	占領期から本格的に進め、その歩みを実証的に明らかにし、地域社会の変遷と県民生活の変化を学ぶ目的で、本学の教員が中心となり研究会を設立し、年に数回開催している	50
高大連携コラボゼミ 9/19、10/20、10/27、11/10、 11/17、12/8、1/19、1/26 9/29、10/6、11/10、11/17、 12/8、1/19、1/26	群馬県少子化対策青少年課からの委託として、次世代を担う若者にライフデザインについて考える機会を創出する講座を実施した。	400
テラコッタ彫刻入門 2/7、2/14、3/14	テラコッタ彫刻をとおして、地域の方とふれあいを深め、ものを作る楽しさを体験	4
永明小との合同合唱祭 2/14	永明小学校の合唱団、本学聖歌隊、地域のコーラスサークル合同で合唱祭を永明小と本学共催で開催した。	200
「平和論」の公開授業 2/5	陸前高田ドキュメンタリー映画「あの街に桜が咲けば」を上映し、一般の方にも震災を通して防災を考えてもらいました。	50
神田外語共催公開講座 8/11	神田外語大学と共催で英語教育の公開講座を本学と合同で開催	175
ナナメの関係と学校教育 12/19	本学学生プロジェクト主催でNPO法人カタリバの寺脇研氏を招いて、教育問題を考える講演を開催した。	集計なし
「共生の教育」公開授業 11/14、11/28	身体障害について考える一般向け講座を開催	2
パソコンはじめて講座 9/1、9/2、9/3、9/4、9/5	パソコンの基礎、タイピング、インターネットの基本を学ぶ。地域受講生と本学サポート学生との世代間交流も目的である(前橋市公民館共催)	100
「ジェンダー論」公開授業 7/8	トランスフェンダーなどの性的少数者への理解を広めるNPO法人Re:Bit(リビット)の方を招いて講演を行った。	30
やる気の木「スーブニール」 上映会 7/5、7/15、7/18	学生プロジェクトで作成した映画を上映し、地域の方を触れ合う機会を作った	100
前橋市タウンミーティング 6/21	前橋市の初めての大学でのタウンミーティングを本学で開催。学生代表と市長のトークセッション等を行った。	112



パソコンはじめて講座
地域の方々をサポートする本学学生



永明小との合同合唱祭
本学聖歌隊の発表



高大連携コラボゼミ
高校生達をリードする本学の学生



「ジェンダー論」公開授業
講演をおこなう Re:Bit の山下理事



ナナメの関係と学校教育
NPO 法人カタリバの寺脇研氏の講演



前橋市タウンミーティング
学生を前に発言する橋本市長

V. 広報活動

■シンポジウム「グローバル人材について考える」開催(平成27年3月6日)

本シンポジウムでは本学で実施したこれまでの様々な取組を報告するとともに、本学が目標に掲げる「グローバル(Global+Local)人材育成」について様々な視点から考察しました。

パネルセッションには、みなかみ町アウトドア会社の株式会社キャニオンズ代表取締役社長のハリス・マイケル・ジョンさん、三洋電機株式会社の三田幸治さん、前橋市の佐藤博之教育長、本学の大森昭生副学長が登壇し、「グローバル人材」をテーマに意見を交わしました。後半には、本学学生が地域と連携して取り組んだ活動も紹介され、来場された約120名の皆様に、日ごろ本学で学ぶ学生の姿を見ていただく良い機会となりました。



パネルセッション



学生による地域と連携した活動の紹介



ハリスさんによる「海外から群馬へ」



三田さんによる「群馬から海外へ」

■その他の広報活動

本事業の趣旨や取組内容を広く地域社会に広報し、理解を得ながら事業を推進するために下記の広報活動を行いました。

①COC 事業専用 Web サイト開設 URL <http://coc.kyoai.ac.jp/> (平成 27 年 3 月)

②COC 事業リーフレット作成・配布(平成 26 年 10 月)

前橋市役所 2000 部を始め、群馬県庁、伊勢崎市役所、公民館などに配布

③COC 事業パンフレット作成・配布(平成 27 年 3 月)

シンポジウム参加者(110 名)などを始め、本事業広報のために配布